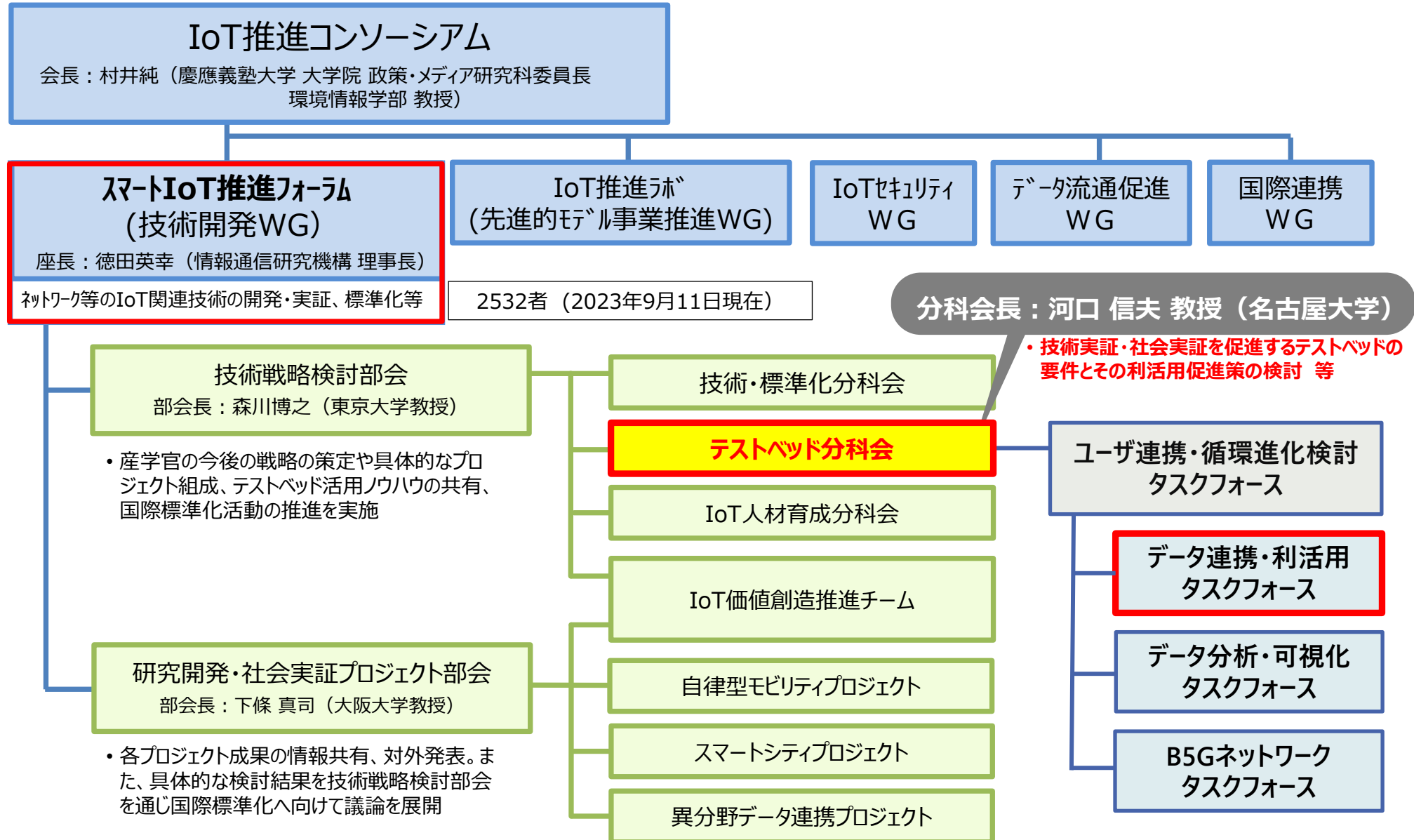


データ連携・利活用タスクフォース活動報告

2023年10月17日

データ連携・利活用タスクフォース
永野 秀尚（情報通信研究機構）



■ 目的

データを活用したサービス開発に求められるデータ連携・利活用のためのテストベッドの在り方を検討

■ 検討事項

1. Beyond 5G 時代のデータ連携・利活用の検討
2. データ連携・利活用のためのテストベッドの在り方の検討
3. その他本タスクフォースの目的を達成するために必要な調査及び検討

■ 運営体制（2023年10月現在）

- リーダ
永野 秀尚（情報通信研究機構）
- 検討メンバー（50音順）
小野 智弘（KDDI総合研究所）
是津 耕司（情報通信研究機構）
道方 孝志（東京大学）

■ 2022年度

1. データ連携・利活用ワークショップ（2022年4月26日）
 - データ連携・利活用における現状と課題について意見交換
2. 第1回データ連携・利活用タスクフォース会合（2023年3月29日）
 - タスクフォース設立（キックオフ）
 - メンバ紹介
 - タスクフォース設立趣旨確認

■ 2023年度

1. 第2回データ連携・利活用タスクフォース会合（2023年6月27日）
 - NICT保有データおよびNICT外機関保有のデータについてメンバ間で情報交換
 - タスクフォースの活動の目標とそれに向けての今後の進め方を議論
 - タスクフォースの目標
 - ⇒ DCCSユーザコミュニティによるシステム開発を通じ、データが循環するエコシステムの構築

■ 2023年度

1. 第3回データ連携・利活用タスクフォース会合（2023年11月頃を予定）
TFの目標に向けた具体的な進め方を議論の予定
 - これまでのデータ利活用
「データを揃えたのでそれを分析して新しい価値を見つけたり、優れたAIを開発してください」
 - これからのデータ利活用
「**ユーザの課題解決のためにデータを利活用**」
（例）「**基盤モデルを中心とした循環進化**」
 - さまざまな課題に適用可能な基盤モデル（AI）を提供
 - 基盤モデルをユーザのさまざまな課題（データ）に適用し解決しつつ基盤モデルにフィードバック
 - このような開発を通じ、ユーザコミュニティの中で基盤モデル（AI）を拡充し育てていくことによる基盤モデル中心の循環進化